

A会場	B会場	C会場	D会場	E会場	F会場	G会場
<p>W01: 殺虫剤作用機構談話会 世話人: 園田 昌司・山本 敦司・水口 智江可</p>	<p>W02: 「わかれ」種分化、系統分化、性分化はどこまで理解できたのか? 世話人: 三浦 一芸</p>	<p>W03: 好蟻性生物集会2016 (JIUSSI共催) 世話人: 坂本 洋典・小松 貴</p>	<p>W04: 第6回昆虫ホルモン談話会: 比留間潔先生退官記念集会「昆虫の変態とホルモン」 世話人: 丹羽 隆介・篠田 徹郎</p>	<p>W05: 深化するガ類性フェロモンの真価2015 世話人: 藤井 毅・櫻井 健志</p>	<p>W06: 昆虫分類学若手懇談会シンポジウム: 昆虫形態の過去・現在・未来 世話人: 有本 晃一</p>	<p>W07: 果樹の難防除研究会~果樹害虫で天敵? 世話人: 中 秀司・新井 朋徳・外山 晶敏</p>
<p>W011 ○坂田 和之・犬飼 佳代・角田 春香 (日本農業株式会社) フルベンジアミド抵抗性コナガの特徴と地理的分布状況およびその年次変動</p> <p>W012 ○上杉 龍士・日本 典秀・後藤 千枝 (農研機構・中央農研) ジアミド系殺虫剤抵抗性遺伝子RyRG4946Eの拡散からみる日本におけるコナガの移動分散実態</p> <p>W013 ○神村 学¹・高須 陽子¹・和田 早苗¹・瀬筒 秀樹¹・黒川 竜紀²・森 泰生² (生物研¹・京大工²) 最新の分子遺伝学的手法を使った殺虫剤抵抗性機構解明の試み</p>	<p>W021 陰山 大輔 (農業生物資源研究所) 性決定システムの多様性: 何が急速な進化をもたらしたか?</p> <p>W022 大島 一正 (京都府大・院生命環境) ニッチ分化は種分化につながるか?: 植食性昆虫の寄主転換を例に</p> <p>W023 三浦 一芸 (農研機構・広島大) 単為生殖系統から両性生殖系統がわかれたのか?</p>	<p>W031 北條 賢 (神戸大・院・理) アリに薬物を与えることで身を守るシジミチョウ</p> <p>W032 ○丸山 宗利¹・小松 貴²・島田 拓³ (九州大・博¹・九州大・熱研²・アントルーム³) 好蟻性甲虫に関する最近の発見</p> <p>W033 ○野村 周平¹・丸山 宗利² (国立科博¹・九大総合博²) ニュージーランドにおける好蟻性アリゾカムシの多様性と進化</p>	<p>W041 藤原 晴彦 (東大・院新領域) ホルモン応答を介した複合適応形質の進化</p> <p>W042 比留間 潔 (弘前大・農生) 昆虫の発育とホルモンー研究生活40年の歩みー</p> <p>W043 篠田 徹郎 (生物研) 昆虫ホルモン・変態研究の現在・過去・未来</p>	<p>W051 ○手嶋 伸・佐久間 正幸 (京大院・農・昆虫生理) 歩くノシメマダラメイガの多感覚情報による性フェロモン源定位メカニズム</p> <p>W052 岡本 朋子 (岐阜大 学 応用生物) ハナホソガ科ガ類の特殊な行動が花の形質を進化させる</p>	<p>W061 山本 周平^{1,2} (九大院・生資環・昆虫¹・学振DC1²) 天然のタイムカプセル: 琥珀昆虫が紐解く形態進化</p> <p>W062 ○吉田 貴大・有本 晃一 (九大院・生資環・昆虫) ヨーロッパ横断博物学の旅</p> <p>W063 斎藤 一哉 (東京大学) ハイスピードカメラによる甲虫後翅の展開収納機構の研究と工学応用への展望</p>	<p>W071 舟山 健 (秋田果樹試) リンゴにおける土着カブリダニを活用したナミハダニ防除の可能性</p> <p>W072 手柴 真弓 (福岡県農林試) コナカイガラムシの天敵の生態と活用</p> <p>W073 松尾 和典 (九大院比文) 果樹カメムシ類の卵寄生蜂</p>

H会場	I会場	J会場	K会場	L会場	M会場
W08: 第18回昆虫の季節適応談話会 世話人: 田中 一裕・後藤 慎介	W09: 昆虫免疫夜話II 世話人: 芳山 三喜雄・古川 誠一	W10: 生物的防除をする上で栽培管理をどうすべきか〜ピーマンとイチゴにおける事例紹介と数理モデルによる解析〜 世話人: 安達 鉄矢	W11: 第46回ハダニ談話会 ~ 紫外線を利用した新たなハダニ防除法確立に向けて: UVダメージと光回復、行動適応〜 世話人: 岸本 英成・伊藤 桂	W12: 昆虫のBt・ウイルスへの抵抗性のメカニズム 世話人: 昆虫病理研究会 (佐藤 令一・仲井 まどか)	W13: 我が国の害虫管理における導入天敵の永続的利用一現状と問題点一 世話人: 中平 賢吾
W081 宮崎 洋祐 (芦屋大・院教) 概年リズムを使ったヒメマルカツオブシムシの季節適応 W082 竹田 真木生 (神戸大農学研究科) サクサン蛹休眠の内分泌御機構と光周性の構造	W091 奥野 正樹 (岐阜大・昆虫生態) 社会性昆虫における生態学的・行動学的免疫の話 W092 ○田中 博光・勾坂 晶 (生物研) Etsファミリータンパク質のカイコ免疫機構への関与	W101 島 克弥 ^{1,2} (デュポン(株) ¹ ・前所属: アリスタライフサイエンス(株) ²) 天敵タイリクヒメハナカメムシの産卵部位と定着における整枝摘葉の影響 W102 ○大朝 真喜子・森光太郎 (石原産業株式会社) イチゴにおける栽培管理を考慮した防除技術 W103 ○池川 雄亮 ¹ ・森光太郎 ² ・大朝 真喜子 ² ・藤田 一平 ³ ・渡邊 丈夫 ⁴ ・江副 日出夫 ¹ ・難波 利幸 ¹ (大阪府大院・理 ¹ ・石原産業中央研 ² ・香川大院・農・昆虫 ³ ・香川農試 ⁴) 栽培管理が生物的防除の効率に与える影響	W111 刑部 正博 (京大院農・生態情報) 植物ダニと紫外線 W112 ○村田 康允・刑部 正博 (京大院・農・生態情報) ナミハダニにおけるUVB誘発DNA損傷と光回復によるその修復メカニズム W113 鈴木 丈詞 (農工大院・BASE) ハダニ類の感覚生態学: UV応答と生息場所選択の季節性	W121 桑崎 誠剛 (生物研) Double Digest RAD-seqによるコナガの連鎖地図作製および薬剤抵抗性原因遺伝子同定への活用 W122 仲井 まどか (農工大院・農) バキュロウイルスに対するハマキガ類の抵抗性メカニズム W123 David G. Heckel (Max Planck Institute for Chemi) The role of ABC transporters in the mode of action of <i>Bacillus thuringiensis</i> Cry toxins	W131 高木 正見 (九大院・農・生防研) アルファルファタコゾウムシの導入天敵ヨーロッパトビチビアメバチの永続的利用一現状と課題一 W132 ○安田 慶次・喜友名 朝次 (沖森研セ) デigoヒメコバチの導入天敵デigoカタビロコバチの永続的利用 W133 広瀬 義躬 (九大) 我が国の導入天敵の永続的利用を阻むもの、とくに農薬取締法の不備について

A会場	B会場	C会場	D会場	E会場	F会場	G会場
<p>W14: ネオニコチノイド農薬による生態影響～何が、どこまで分かったのか? 世話人: 中牟田 潔・五箇 公一</p>	<p>W15: 視覚イメージを利用した害虫管理を学ぶ会～赤組～ 世話人: 霜田 政美・太田 泉・徳丸 晋・柴尾 学</p>	<p>W16: ゲノムからみた複合適応形質の進化 世話人: 嶋田 透・大島 一正・深津 武馬</p>	<p>W17: 日本昆虫学会自然保護委員会小集会「近畿地方を中心とした生物地理と保全」 世話人: 中尾 史郎・矢後 勝也</p>	<p>W18: 日本半翅類学会小集会 世話人: 山田 量崇</p>	<p>W19: 昆虫形態学を劇的に変えるマイクロX線CTを知る集い 世話人: 野村 周平・松村 洋子</p>	<p>W20: 侵略的外来生物問題を考えよう～平成27年度新顔たちの最新情報! 世話人: 浦野 知・高野 俊一郎・守屋 成一</p>
<p>W141 ○五箇 公一¹・江川 知花²・笠井 敦¹(国立環境研¹・農環研²) ネオニコチノイド農薬のマルハナバチ類に対する影響評価</p> <p>W142 ○滝 久智・安田 美香・永光 輝義(森林総研) ネオニコチノイド農薬のニホンミツバチに対する影響評価</p> <p>W143 相澤 章仁・野村 昌史・○中牟田 潔(千葉大・院・園芸) 陸域昆虫類のネオニコチノイド系薬剤に対する感受性の種間差について</p> <p>W144 林 岳彦(国立環境研究所) ネオニコチノイド農薬等の水田生物多様性影響評価から見えたもの</p>	<p>W151 霜田 政美(農業生物資源研) 視覚イメージを利用した害虫防除法“光防除”について</p> <p>W152 ○徳丸 晋¹・伊藤 俊¹・上山 博¹・吾郷 泰三²・阿部 弘文²(京都農技セ¹・日本ワイドクロス²) 赤系ネットに対するタバココナジラミ、トマトハモグリバエおよびネギアザミウマの行動反応特性</p> <p>W153 ○柴尾 学・城塚 可奈子(大阪環農水研) 赤色蛍光灯と光反射シートの併用による施設ナスのアザミウマ類の密度抑制</p> <p>W154 ○石川 隆輔・土井 誠・中野 亮平(静岡農林技研) 赤色LED照射がメロンで発生するアザミウマ類の生息密度に及ぼす影響</p> <p>W155 ○村田 未果¹・針山 孝彦²・山濱 由美²・外山 美奈²・太田 泉¹((国研)農研機構 野茶研¹・浜松医大²) ミナミキイロアザミウマに対する赤色光の制御機構に関する考察</p>	<p>W161 ○小沼 順二¹・藤澤 知親²・曾田 貞滋²(東邦大・理¹・京大・理²) マイマイカブリ外部形態の適応分化とその遺伝基盤</p> <p>W162 上村 佳孝(慶應大・生物) 交尾器はなぜ噛み合う? ショウジョウバエで探るその進化メカニズム</p> <p>W163 ○土松 隆志^{1,2,3}・角 井 宏行³・山崎 美紗子³・Cindy Marona⁴・Dazhe Meng²・筒井 大貴⁵・金岡 雅浩⁵・Thomas Stadler⁶・Michael Lenhard⁴・Magnus Nordborg²・清水 健太郎³(千葉大¹・グレゴール・メンデル研究所²・チューリッヒ大学³・ポツダム大⁴・名古屋大⁵・ETHチューリッヒ校⁶) GWASから量的形質の進化を探る: シロイヌナズナの生殖形質を例に</p>	<p>W171 ○中尾 史郎¹・矢後 勝也²(京都府大・生命環境¹・東京大・総研博²) 近畿地方における昆虫の分布 - 局在と境界について -</p> <p>W172 的場 續(和歌山県立自然博物館) 紀伊半島のゾウムシ類</p> <p>W173 久保田 耕平(東大院農) 近畿地方の昆虫の複雑な生物地理と保全の問題-オサムシ亜族とルリクワガタ属-</p>	<p>W181 ○長島 聖大¹・石川 忠²(伊丹市昆虫館¹・東京農大²) 岩手県葛巻町のカメムシ調査について</p>	<p>W191 松村 洋子(慶應大学) 序論: マイクロCTの利用は昆虫学に何をもたらすのか</p> <p>W192 楠引 敬嗣(島津製作所) マイクロフォーカスX線CTによる昆虫の3次元観察</p> <p>W193 ○中瀬 悠太・野村 周平(国立科学博物館) X線マイクロCTで見る昆虫の内部形態</p> <p>W194 渡辺 恭平(神奈川県博) マイクロCTの活用と博物館～利点と現状、課題について～</p>	<p>W201 中村 浩昭・○山口 卓宏・嶽崎 研(鹿児島農総セ) 根絶から36年、奄美大島でミカンコミバエが再び発生</p> <p>W202 ○小野寺 鶴将¹・奈良部 孝²(道総研 北見農試¹・農研機構 北海道農研²) ジャガイモシロシストセンチュウ (<i>Globodera pallida</i>) の北海道における発生確認と対応について</p>

H会場	I会場	J会場	K会場	L会場	M会場
<p>W21: "帰ってきた" 母性効果 共催: 昆虫家族をめぐる進化生態学 世話人: 奥 圭子・鈴木 誠治・工藤 慎一</p>	<p>W22: 第1回 天敵利用を考える会 天敵利用の最近の動向と今後の展開 世話人: 矢野 栄二・大野 和朗</p>	<p>W23: ミナミアオカメムシを巡る最近の話題 世話人: 水谷 信夫・西野 実</p>	<p>W24: 第15回穿孔性昆虫を語る会 世話人: 梶村 恒・荒谷 邦雄</p>	<p>W25: 寄生性ハチ類の集い 世話人: 伊藤 誠人・藏満 司夢</p>	<p>W26: 第20回地表性甲虫談話会例会 世話人: 藤澤 貴弘</p>
<p>W211 奥 圭子 (農研機構・中央農研) 再・母性効果を考える: 進化生態学からの視点</p> <p>W212 石原 道博 (大阪府大院・理・生物) 適応かコストか? マメゾウムシ類の卵サイズに見られる季節変異</p> <p>W213 工藤 慎一 (鳴門教育大院・学校教育) 母性効果を通じた親子対立の解消: ツチカメムシ類の栄養卵生産と種子給餌</p>	<p>W221 矢野 栄二 (近畿大・農) 施設園芸における天敵の放飼増強法の歴史と今後の展望</p> <p>W222 大野 和朗 (宮崎大・農) 生物的防除を支える新しい技術~天敵の強化と今後の展望</p> <p>W223 ○柿元 一樹¹・安部 順一朗² (鹿児島農総C¹・近中四農研²) 生産現場での天敵利用の現状と今後の展開</p>	<p>W231 ○西野 実・大仲 桂太 (三重県農業研究所) 三重県におけるミナミアオカメムシの分布の変化と越冬可能地域予測モデル</p> <p>W232 ○清水 健・河名 利幸 (千葉県農林総研七暖地) 千葉県におけるミナミアオカメムシの分布の現状と分布拡大の可能性</p> <p>W233 三田 敏治 (九大院・農・昆虫) 九州でみられるミナミアオカメムシの卵寄生蜂の概要と各種の見分け方</p> <p>W234 ○西本 浩之¹・藤田 智美²・田中 利治³・加藤 晋朗¹ (愛知農総試¹・尾張農林水産事務所²・名古屋大学³) ミナミアオカメムシの卵寄生蜂2種の種間競合</p> <p>W235 遠藤 信幸 (九州沖縄農研) 簡易LEDトラップを用いたミナミアオカメムシおよびアオクサカメムシの現地モニタリングの試み</p>	<p>W241 照屋 清仁 (沖縄防技セ) サツマイモの害虫イモゾウムシ</p> <p>W242 桐山 哲 (日本大学・生物・森林動物) 日本各地に侵入した外来種クビアカツヤカミキリ <i>Aromia bungii</i> の生態的知見と被害・防除状況について</p> <p>W243 岩田 隆太郎 (日大・生物資源) 木質昆虫学序説</p>	<p>W251 三浦 一芸 (農研機構・広島大) あなたは寄生蜂の性についてどこまで知っていますか?</p> <p>W252 米田 洋斗 (九大院・生資環・昆虫) タマゴクロバチを同定するための諸問題とその解決法</p> <p>W253 菊地 波輝 (北大・農・昆虫体系) 寄生蜂の多様性研究 -その意義と現状-</p> <p>W254 河野 太祐 (九大院・生資環・昆虫) 寄生蜂の生物多様性情報の集積と利用</p>	<p>W261 ○緒勝 祐太郎¹・塘 忠顕² (福島大・院・理工¹・福島大・理工²) 福島県裏磐梯地域のオサムシ科甲虫群集~環境要因, 土壌動物との関係~</p> <p>W262 ○赤嶺 真由美^{1,2}・成瀬 真理生¹・谷脇 徹¹・田村 淳¹ (自然環境保セ¹・日大・生物資源²) 地表性節足動物および林床性昆虫の多様性と環境要因</p>

A会場	B会場	C会場	D会場	E会場	F会場	G会場
<p>W27: 多次元画像ビッグデータを活用した動物学の新展開(共催:JIUSSI) 世話人: 岡田 泰和・測例 太郎</p>	<p>W28: 作物の免疫力を生かした害虫防除を目指して 世話人: 田村 泰盛・小林 徹也</p>	<p>W29: 水田の重要天敵ウンカシヘンチュウの可能性を探る(Ⅰ) 世話人: 吉田 睦浩・日鷹 一雅</p>	<p>W30: 生物間相互作用の情報科学 その12 生態系全体から考える植物の被食防衛機構と昆虫の適応機構の作用と進化 世話人: 今野 浩太郎・大村 尚・小野 正人・森 直樹</p>	<p>W31: 昆虫の生物音響学の最前線: 音・振動による行動制御機構および物理保護技術 世話人: 高梨 琢磨・清水 健</p>	<p>W32: 第25回昆虫担当学芸員協議会総会「これからの博物館・昆虫館の展示活動」 世話人: 金沢 至・初宿 成彦・松本 吏樹郎</p>	<p>W33: 昆虫の分子生態学的研究への次世代シーケンサーの活用 世話人: 和智 仲是</p>
<p>W271 ○岡田 泰和¹・測例 太郎²(東大院・総合文化¹・京大院・農・昆虫生態²) 趣旨説明: 多次元画像ビッグデータを活用した動物学の新展開</p> <p>W272 ○阿部 真人¹・藤岡 春菜²(国立情報研, JST ERATO¹・東大院広域システム²) トラッキングを用いた社会性昆虫の動態と個体間相互作用の解析</p> <p>W273 ○菊地 友則¹・林 叔克²・菅原 研⁴・結城 麻衣⁵・辻 和希³(千葉大¹・レディング大²・琉球大³・東北学院大⁴・仙台市⁵) 社会性昆虫における集団レベルのリズム活動発現メカニズム</p> <p>W274 水元 惟暁(京大院・農・昆虫生態) シロアリの構造物形成における種内変異を生み出すメカニズム</p> <p>W275 ○橋本 佳明¹・木村 敏文²(兵庫県立大学/人博¹・兵庫県立大学²) 君は僕に似ている?—画像解析手法を用いたアリ擬態の研究</p>	<p>W281 ○安部 洋¹・櫻井 民人²・富高 保弘¹・大矢 武志³・川田 祐輔³・松浦 昌平⁴・浅見 忠夫⁵・三富 正明⁶・腰山 雅巳⁷・釘宮 聡一⁸・下田 武志¹・津田 新哉²・小林 正智¹(理研BRC¹・中央農研²・神奈川県³・広島県⁴・東京大学⁵・Meiji Seika ファルマ⁶・日本ゼオン⁷・農環研⁸) 植物の耐虫性メカニズムと害虫の行動制御への応用</p> <p>W282 ○塩尻 かおり¹・小澤 理香²・高林 純示²・斎藤 隆満³・徳丸 晋⁵・山下 賢一⁴(龍谷大・農¹・京大・生態研²・兵庫農セ³・Bayer C.S.⁴・京都農技セ⁵) 匂いを介した植物コミュニケーションを利用して作物の耐虫性を活性化</p> <p>W283 ○田村 泰盛¹・服部 誠¹・吉岡 博文²・高橋 章¹・安井 秀³(農業生物資源研¹・名大²・九大³) トビロウシカに対するイネの抵抗性遺伝子の単離と利用に向けた展望</p> <p>W284 ○小林 徹也¹・末次 克行¹・真田 幸代²・松村 正哉²(農業生物資源研究所¹・九州沖縄農業研究センター²) 抵抗性イネとこれを加害するトビロウシカを用いたイネーウンカ相互作用研究の進展</p>	<p>W291 松村 正哉(九州沖縄農研) イネウンカ類の近年の発生動向</p> <p>W292 日鷹 一雅(愛媛大・農) 1980-90年代のウンカシヘンチュウの研究史と今後の展開</p> <p>W293 星野 滋(広島総研農技セ) 広島県におけるウンカシヘンチュウ密度の推移について</p> <p>W294 ○永井 一哉¹・日鷹 一雅²(日植防・岡山¹・愛媛大・農²) ウンカシヘンチュウ導入によるトビロウシカの密度抑制</p> <p>W295 吉田 睦浩(九州沖縄農研セ) ウンカシヘンチュウの飼育環境下での産卵推移と増殖の可能性</p> <p>W296 ○松比良 邦彦・井上 栄明(鹿児島農総セ) 鹿児島県におけるウンカシヘンチュウの近年の発生状況と今後の課題</p> <p>W297 ○井上 栄明・松比良 邦彦(鹿児島農総セ) イネウンカ類の防除の現状・露地作物での天敵利用</p>	<p>W301 深野 祐也(農工大・農) 植物の防御の進化と植食者昆虫の適応過程を、外来種の急速な進化で検証する</p> <p>W302 今野 浩太郎(農業生物資源研究所) 食物網新数理モデルが解き明かす現実—植食昆虫は植物防御を打破できるのに地上生態系はなぜ緑? 植物の栄養防御なぜ有効? 食物連鎖系はピラミッド型?</p>	<p>W311 高梨 琢磨(森林総研) 昆虫の生物音響学: 音・振動による行動制御機構の解明と物理保護技術の開発</p> <p>W312 向井 裕美(森林総研) カメムシの求愛コミュニケーションにおける複数感覚利用と振動シグナルの機能</p> <p>W313 ○松尾 行雄¹・佐藤 政博²・伊藤 彰夫²(東北学院大学¹・倉元製作所²) 超音波を用いたガウの物理的保護技術の開発</p>	<p>W321 大島 康宏(三重県総合博物館) 三重県総合博物館第7回企画展「あんな虫 こんな虫 そんな虫 ~身近な小さな生きものたち~」と当館の概要について</p> <p>W322 ○福富 宏和¹・長島 聖大²(石川県ふれあい昆虫館¹・伊丹市昆虫館²) 昆虫館における昆虫生体を使った体験展示について</p> <p>W323 矢後 勝也(東大・総研博) 日本の昆虫黄金期を築いた加藤正世博士とそのコレクション(平成27年度・東京大学総合研究博物館モバイル特別展「蟬類博物館」展示概説)</p>	<p>W331 ○和智 仲是・蘇 智慧(JT生命誌研究館) 次世代シーケンス技術を用いた非モデル昆虫の分子生態学的研究—イチジクコバチを例として—</p> <p>W332 ○南部 隆宏・前藤 薫(神戸大院・農・昆虫多様性生態) 次世代シーケンサーを用いた餌同定手法の開発経過</p> <p>W333 松林 圭(九大・基幹教育) RAD-seqによる大量データで迫る日本産マダラテントウの種分化過程</p>

H会場	I会場	J会場	K会場	L会場	M会場
<p>W34: 研究の充実と発展のための昆虫学者交流集会 世話人: 金尾 太輔・中瀬 悠太</p>	<p>W35: 第22回日本ICiPE協会研究報告会ーアフリカ昆虫学への招待ー 世話人: 足達 太郎</p>	<p>W36: 鱗翅類研究の最前線ー第69回レビドブレリストゼミナールー 世話人: 那須 義次</p>	<p>W37: 害虫管理と景観生態学: 実践的な事例の紹介 世話人: 田淵 研・仲島 義貴・滝 久智</p>	<p>W38: 英語版, 直翅類研究会 Orthopterists' Meeting in English 世話人: 立田 晴記・鶴井 香織</p>	<p>W39: KAMEMUSHI TODAYーカメムシの現在を語るー 世話人: 大林 翼・松浦 優</p>
<p>W341 中瀬 悠太(国立科学博物館) 焦点深度合成からX線マイクロCTまで、昆虫学における画像化技術</p> <p>W342 門脇 浩明(京大・人環) 甲虫ときのこの関係から見た「生態学」</p> <p>W343 金尾 太輔(京大・人環) シロアリの巣に隠れた生物多様性の解明を目指して</p>	<p>W351 ○岩田 大生¹・檜山 充樹²・松本 晶子³・大瀧 文二⁴(琉球大・院・理工¹・琉球大・博士研究員・理工²・琉球大・観光³・琉球大・理・生物⁴) アフリカから考えるヤマトシジミ (<i>Zizeeria maha</i>) の進化と起源</p> <p>W352 皆川 昇(長崎大・熱研) 南部アフリカにおける気候予測モデルをもとにした感染症流行の早期警戒システムの構築: サトレッププロジェクト</p> <p>W353 松本 忠夫(放送大学) ケニアの巨大なシロアリ塚、そして大型動物たち</p>	<p>W361 長田 庸平(九大院・生資環・昆虫) 菌食性のオオヒロズコガ亜科およびコクガ亜科(チョウ目ヒロズコガ科)の分類学的研究ー特に、害虫種の形態・分子情報に基づく識別についてー</p> <p>W362 神保 宇嗣(国立科博・動物) DNAバーコードから再検討するカクモンハマキガ類(ハマキガ科)の広域分布種</p> <p>W363 中 秀司(鳥取大・農) 鱗翅類フェロモン研究の最前線: 生態から分子まで</p> <p>W364 ○那須 義次¹・枝 恵太郎²・富沢 章²・佐藤 顕義³・勝田 節子³(大阪府農業大学校¹・日本蛾類学会²・(有)アルマス³) 日本におけるコウモリのグアノを摂食するチョウ目昆虫の発見</p> <p>W365 大島 一正(京都府大・院生命環境) 茶とともに歩む蛾: チャノハマキホソガのナチュラルヒストリー</p> <p>W366 ○清水 加耶¹・市岡 孝朗²・吉安 裕³(京大・生態研¹・京大・人環²・京府大・生境³) アリ植物を寄主利用する未記載のマダガ科の1種 <i>Pharambara</i> sp.</p>	<p>W371 ○田淵 研¹・仲島 義貴²・滝 久智³(農研機構東北農研¹・京大生態研²・森林総研³) 害虫管理と景観生態学: 実践的な事例の紹介</p> <p>W372 ○岩田 大介・石本 万寿広(新潟農総研作物研) 周辺環境と斑点米カメムシの発生量の関係: フリーソフトを用いた解析</p> <p>W373 大江 高穂(宮城古川農試) 津波被災水田における斑点米カメムシ類の発生: 周辺環境情報を使った解析</p> <p>W374 植松 繁¹・八尾 充睦¹・藪 哲男²・宮下 奈緒³・安田 美香⁴(石川農総研¹・石川県生産流通課²・石川県温暖化里山対策室³・森林総研⁴) 石川県におけるGISを活用した害虫管理ークモヘリカメムシ分布要因の推定をはじめとした事例紹介ー</p>	<p>W381 ○鶴井 香織・立田 晴記(University of the Ryukyus) Orthopterists' meeting in English: Introduction</p> <p>W382 Grzywacz Beata (ISEA PAS; JSPS) Molecular phylogeny of <i>Tettigonia</i> (Orthoptera: Tettigoniidae)</p> <p>W383 本間 淳^{1,2}(Ryukyu SANKEI¹・Univ. Ryukyus²) The cost of hind-limb autotomy in the Rice grasshopper, <i>Oxya yezoensis</i></p>	<p>W391 ○大林 翼¹・Peter Mergaert²・二橋 亮³・深津 武馬³・菊池 義智^{1,3}(北大・農¹・CNRS²・産総研・生物プロセス³) カメムシ共生研究最前線ーカメムシ腸内に広がる神秘の世界ー</p> <p>W392 洲崎 雄(京大・院・理) 魅力的な夫は優れた子をもたらす: ホソヘリカメムシのメスの配偶者選択</p> <p>W393 大庭 伸也(長崎大・教育・生物) タガメの父親はアリから保護卵塊を守れるか?</p>